

2017年度（2018年3月）卒業アンケート結果について

※数字は実数

2018年3月卒業生121名のうち、94名から回答（78%）があった。

I 専修言語について

専修言語	英語	フランス語	ドイツ語	中国語	韓国語	日本語	合計
	29	9	14	17	12	0	81
1 あなたが専修言語以外に学んだ言語は何ですか。（複数回答可）	英語	フランス語	ドイツ語	中国語	韓国語	日本語	
	23	9	14	17	12	0	
	その他	未選択	無回答				合計
	0	0	0				75
<その言語を学んだ期間>	1年春学期 ～1年秋学期	1年春学期 ～2年春学期	1年春学期 ～2年秋学期	1年春学期 ～3年春学期	1年春学期 ～3年秋学期	1年春学期 ～4年春学期	
	23	23	7	3	6	6	
	1年春学期 ～4年秋学期	2年春学期の み	2年春学期 ～2年秋学期	2年春学期 ～3年春学期	3年春学期の み	3年春学期 ～3年秋学期	
	18	1	2	1	2	1	
	3年春学期 ～4年秋学期	3年秋学期 ～4年秋学期	4年春学期の み				合計
1	2	3				99	
2 あなたが学んだ研究プログラムは何ですか。（複数回答あり）	①異文化国際理解プログラム	②観光ホスピタリティプログラム	③翻訳・通訳プログラム	④国際ビジネスプログラム	⑤英語専門職プログラム	⑥比較社会文化研究プログラム	
	19	20	7	4	9	2	
	⑦ヨーロッパ研究プログラム	⑧アジア研究プログラム	⑨日本研究プログラム	無回答			合計
8	16	8	17			110	

専修言語以外に学んだ言語の回答をみると、英語以外の言語を専修とした学生の数と全く一致している結果は判読しがたい。専修言語が英語と答えた学生数（29）以上の数が、専修言語以外に学んだ言語は何ですかとの問いに答えていることは、英語以外の言語を第一言語とした学生（52）が英語以外の言語を第二言語として選んでいることを意味しているが、あまり想定できない回答である。また、昨年度と比較してみると、英語以外の言語を第1言語とした学生が英語を第2言語として選択していない（第二言語としての選択者は23）ことが今回の卒業生の回答から読み取れる。英語の学生は中国語を選択したものが多かった。昨年度に

比較して、数字上では第2言語を選択していなかった英語専修学生が多かったようにみえるが、未選択及び無回答が0であることから実際のところはよくわからない。また、第1言語が英語以外の学生はやはり第2言語として英語を選択履修したことがわかる。

本学では2つの言語の学修を推奨しているが、第2言語を学修した期間を問う回答では、1年生の1年間だけでなく、留学前の2年生春学期まで、また卒業前の4年生秋学期まで履修を継続した学生もかなりいることがわかった。ただし、1年間だけと回答した学生と4年間継続したと回答した学生数に大きな違いがないことから、初修段階でやめる学生とそうでない学生とに分かれると考えられる。2年の秋学期から半年、もしくは一年間留学する学生がいずれの専修言語にも多数いることから、こうした学生たちは第2言語を途中で止めてしまう（止めざるを得ない）ことも要因と考えられる。

学修した研究プログラムをたずねる質問では、複数回答ではあるが、昨年度と同様、観光ホスピタリティ研究プログラムとアジア研究プログラムの回答が多かった。昨年度は無回答（10）とする学生も多く、「研究プログラムごとの最低 修得単位数が設定されておらず、研究プログラムを横断して必要な科目を履修できるような設計になっていることから、研究プログラムへの所属意識が希薄とも言えなくはないように思われる」と指摘したが、今年度は無回答数が昨年度より大きく減っている。このことから直ちに研究プログラムを柱に学修する体制がようやく定着し、専修言語と研究プログラムの主体的な学修が一体化しつつあるといえるかどうかは引き続き注視していかなばならない。来年度において、また昨年度のような無回答が多くなるようでは、教育課程上の研究プログラムの設計自体を再考する必要がある。

II 教育課程について

	①そう思う	②ある程度 そう思う	③あまり思わ ない	④思わない	⑤わからな い	(無回答)	合計
1.「基礎演習Ⅰ」から「日本語表現法Ⅳ」までの日本語リテラシー科目は、様々な学修を行っていくうえで必要だと思いますか。	66	26	0	0	0	2	94
2.自分の興味や関心に従って、授業科目を履修することができたと思いますか。	41	42	7	0	2	2	94
3.卒業するにあたって、この4年間で十分な語学学習ができ、語学力が身についたと思いますか。	31	58	3	0	0	2	94
4.社会で必要となる教養や専門知識など身に付けることができたと思いますか。	44	44	3	0	1	2	94
5.自らが学びたいという姿勢、主体的に学ぶ力は身についたと思いますか。また、卒業後も、自ら学ぶことのできる力が身についたと思いますか。	45	40	6	1	0	2	94

設問1の、初年次導入科目ならびに日本語リテラシー科目(1年次~3年次必修)の必要性については、「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した学生の割合が98%あり(昨年度は92%)、その必要性の認識は定着してきたと言えそうである。無回答をのぞけば、100%の肯定評価と言える。

設問の2はカリキュラムが昨年度と変わっている訳ではないが、「あまり思わない」「思わない」の割合は大きく減少した昨年度(17→6)と同程度であり、「思わない」とする回答はなかった。一方、「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した学生の割合は88%で昨年度とほぼ同程度である。上述の専修言語のアンケートにみられたように、専修言語と研究プログラムの主体的学修意識が醸成されており、学びたいことが学べたとする卒業生が多かったということであろう。

設問3の語学力については、本学の語学教育課程において、「そう思う」「ある程度そう思う」とある程度以上の語学力を身につけることができた肯定的回答した学生の割合は95%にのぼり(昨年度は87%)、設問2と関連するものと考えられる。

設問4では、設問1と同様、「そう思う」「ある程度そう思う」と肯定的回答した学生の割合は94%(昨年度は92%)で昨年度に比べて若干増えている。教養科目や専門科目などを通して、学生たちが必要とする知識や教養を身につけることができたと評価していると考えられる。

設問5は、大学教育の本質的役割の問いであるが、「そう思う」「ある程度そう思う」と肯定的回答した学生の割合は90%で昨年度とほぼ変わらず(昨年度は91%)。設問3,4に比べると、何か(誰か)の指導の下での学修からの旅立ち、つまり主体的学びに関して若干の不安をかかえている学生がいるということだろうか。ただ、多くの学生たちは主体的な学修に取り組める自信を持って卒業してくれたと言えるだろう。

教育課程の設問については、全体として「あまり思わない」「思わない」との回答が昨年度より大幅に減っており、高く評価されていると受け止めて良いと考える。

III 大学生生活について

	①そう思う	②ある程度 そう思う	③あまり思 わない	④思わない	⑤わからな い	(無回答)	合計
1.学業にやりがいを持って取り組むことができたと思いますか。	47	42	3	0	0	2	94
2.自分の学生生活(学業以外)は楽しかったと思いますか。	51	36	5	0	0	2	94
3.授業内外、課外活動などで教職員との接点を持つ機会があったと思いますか。	35	38	16	2	1	2	94
4.在学中の交流はできましたか。	48	35	7	1	1	2	94
5.全体的に大学側のサポートは適切でしたか。	28	54	6	3	1	2	94

設問1の学業面について、「やりがいを持って取り組めた」とほぼ肯定的な評価が寄せられており95%となっており昨年度より上がっている(昨年度は89%)。9割以上となるこの数字をみれば、全体として、充実した学業生活をおくることができた受け止めている学生がほとんどだと考えて良いだろう。

設問2の学生生活全般についても、①と②を合わせ、「楽しく過ごせた」とほぼ肯定的な評価が寄せられており、93%となっている(昨年度は92%)。この数字をみれば、全体として、充実した学生生活(学業以外でも)をおくることができた受け止めている学生がほとんどだと考えて良いだろう。

設問 3 は教職員との距離感をたずねているが、これは昨年度より「そう思う」「ある程度そう思う」の割合はかなり下がり（昨年度86%→今年度78%）っている。これまでは85%程度あったことから、どういった点からこのような評価となったのか、今年度の学生に特徴的な傾向なのかかわからないが、特に、少人数、教員と学生との近さ、接点の多さをアピールしていることから、この評価を失うことのないようすることが重要である。

設問4 では、日本人学生・留学生を含め、学生間の交流についてたずねている。設問は「在学中の交流はできましたか」とやや抽象的な質問となっており、留学生との交流(日本人学生とり)、日本人学生との交流(留学生にとって)、また留学生同士、日本人学生同士を分けずにたずねた。どのような交流を思い描いて回答したかは明確ではないが、少なくとも数字から見れば、「そう思う」「ある程度そう思う」の肯定的評価の割合は87%になっており（昨年度は90%）、学生同士の交流は積極的にはかられたようである。

設問5も曖昧なたずねかたであるが、他のいずれも回答結果と同様、「そう思う」「ある程度そう思う」の回答は昨年度の83%から87%へと若干上がっており、回答の結果からみれば、4年間学んだ大学に対して肯定的な評価判断を下しているといえよう。

設問3, 4の対人関係質問が若干これまでの傾向と異なってはいるものの、設問全体としては、肯定的評価をしていると受け取って良いと思われる。

IV 自由回答について

「サークルに入らなかったのも、あまり友人関係が築けなかったことを後悔している」と記した卒業生がいる一方で、「1年生の時に比べて英語力が伸びて、たくさんの人と交流を持つことが出来ました」との記述もある。上記の設問回答にかかわらず、自由記述では否定的なコメントは見当たらず、大学への好意的なコメントが寄せられている。いくつか、本学にとって嬉しいコメントを抜粋しておきたい。

「英語を極めたいという入学してからの目標を達成できました。入学して本当に良かったです」

「留学や国際交流などたくさんことができ、とても充実した4年間を過ごす事ができて良かったと思います」

「本当に充実した4年間となりました。先生方、お世話になりました。ここでの経験を外で生かしていきます」

「大学の教職員の方々には多大なサポートをしていただき、感謝しています。」

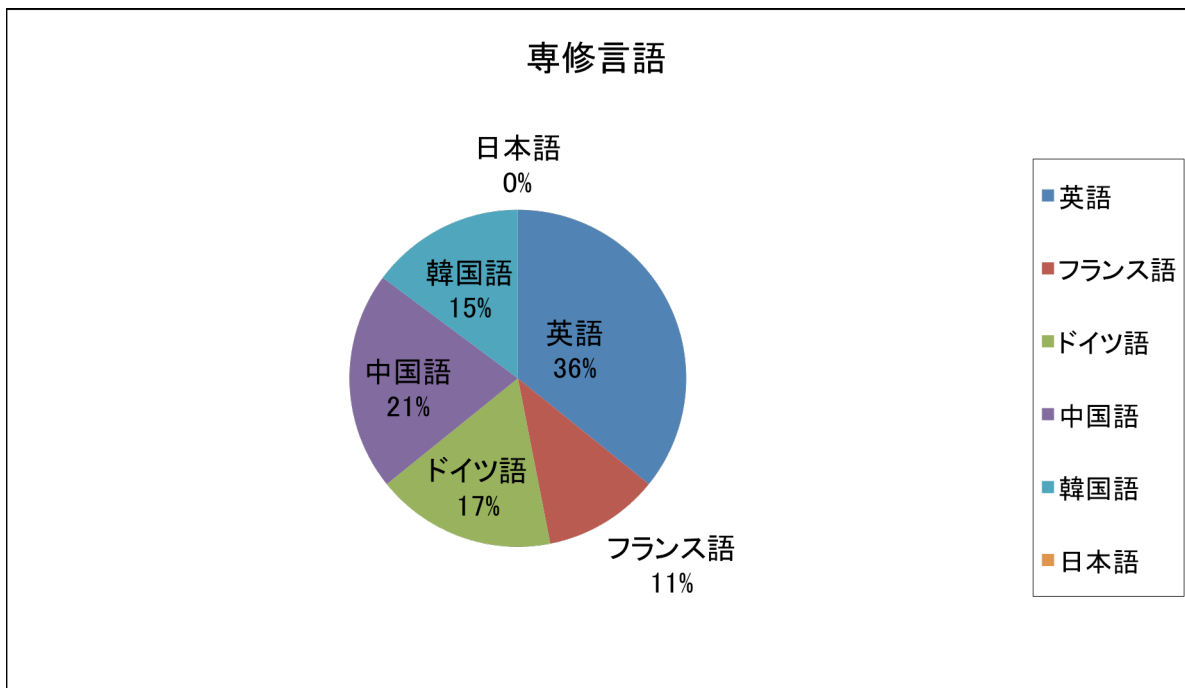
「色々な言語を学べたということがとてもよかったですと思います」

毎年のごとくであるが、これをもとに問題点や課題について点検し、これを修正・改善することによって、より良い教育環境及び学修生活環境を実現していくことが本来の目的であることを確認しておきたい。

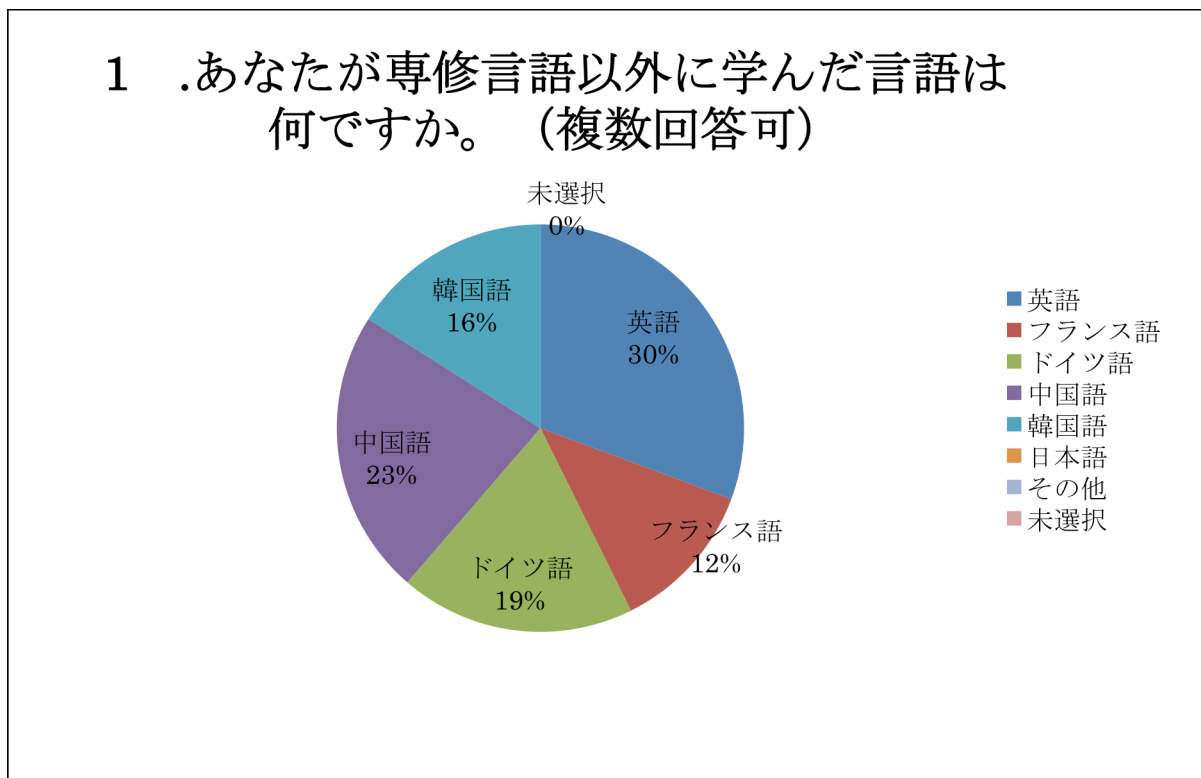
教育支援部長
山川欣也
2018年8月20日

グラフ資料

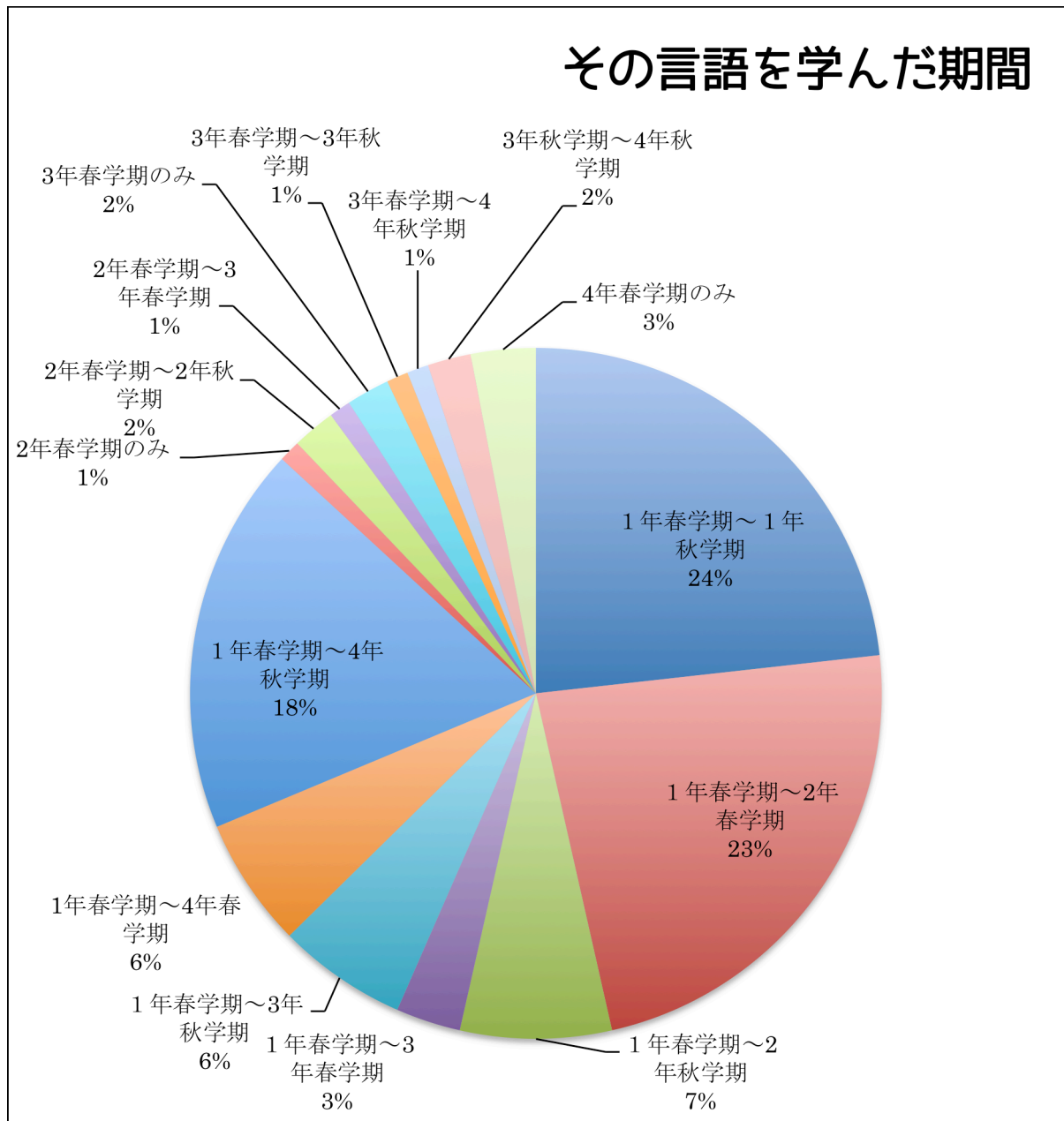
I 専修言語について



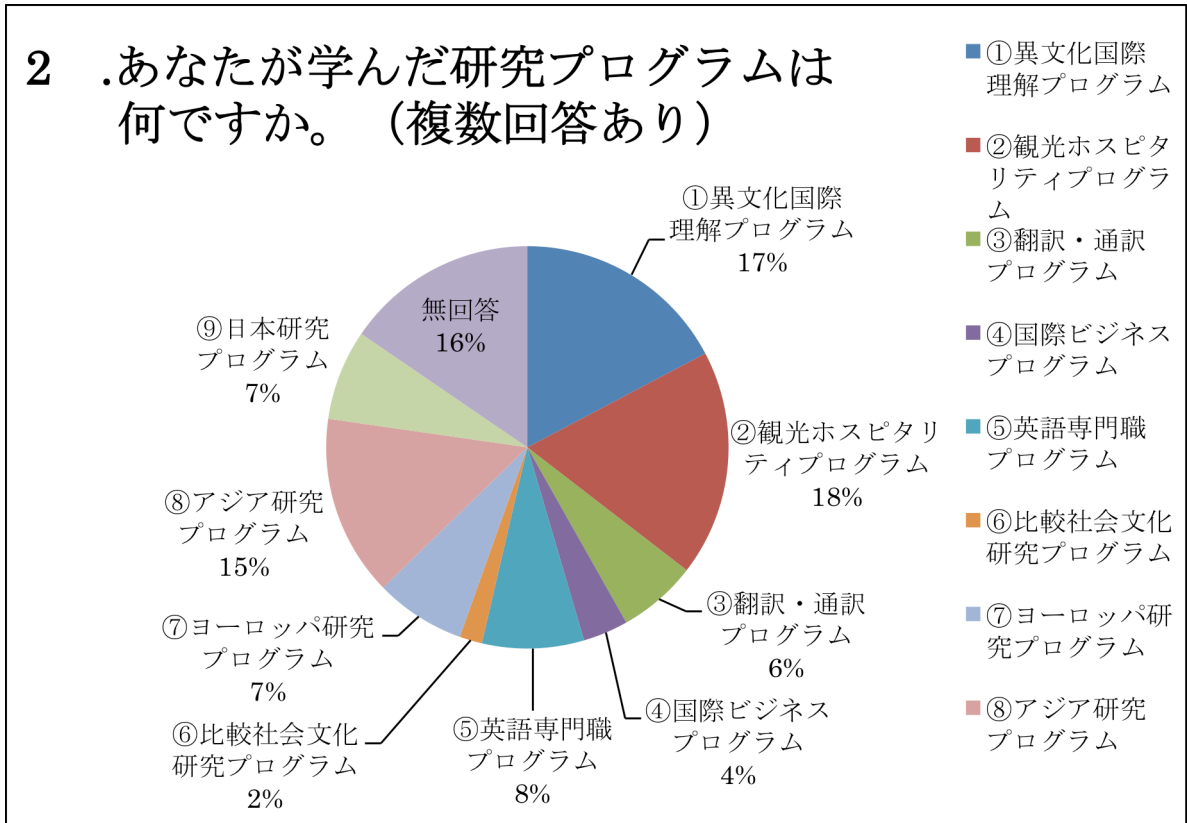
(設問1)



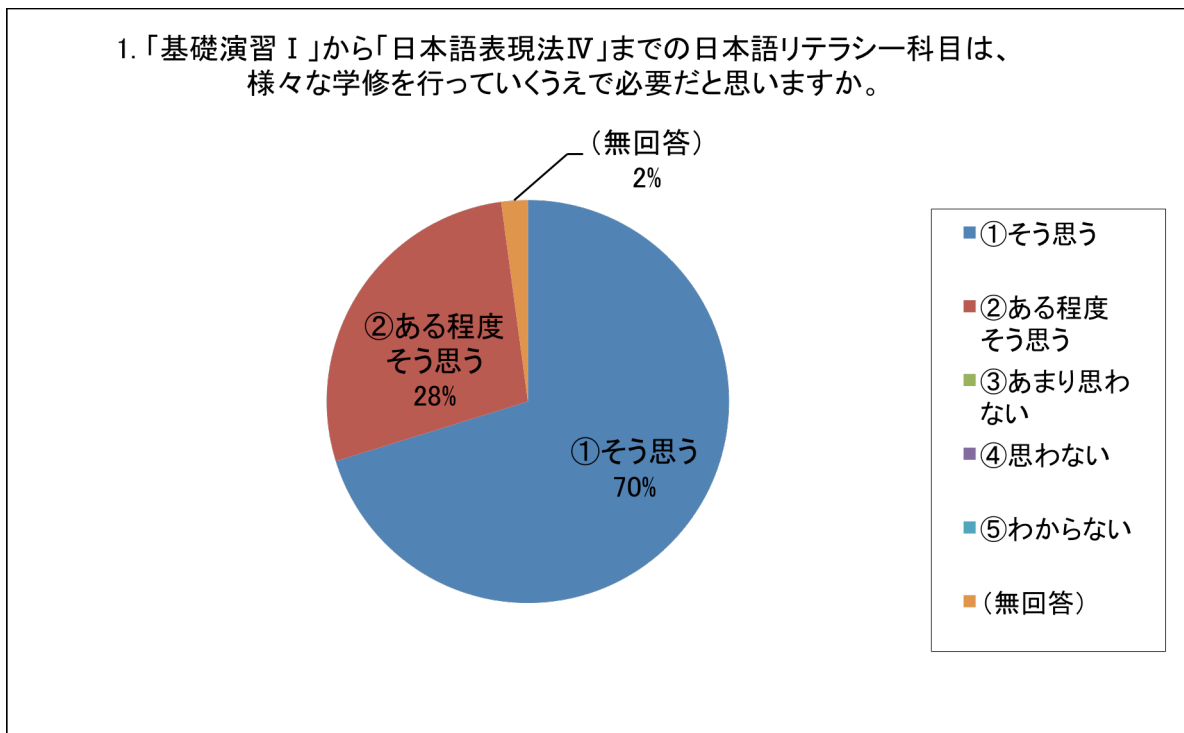
(設問1-1)



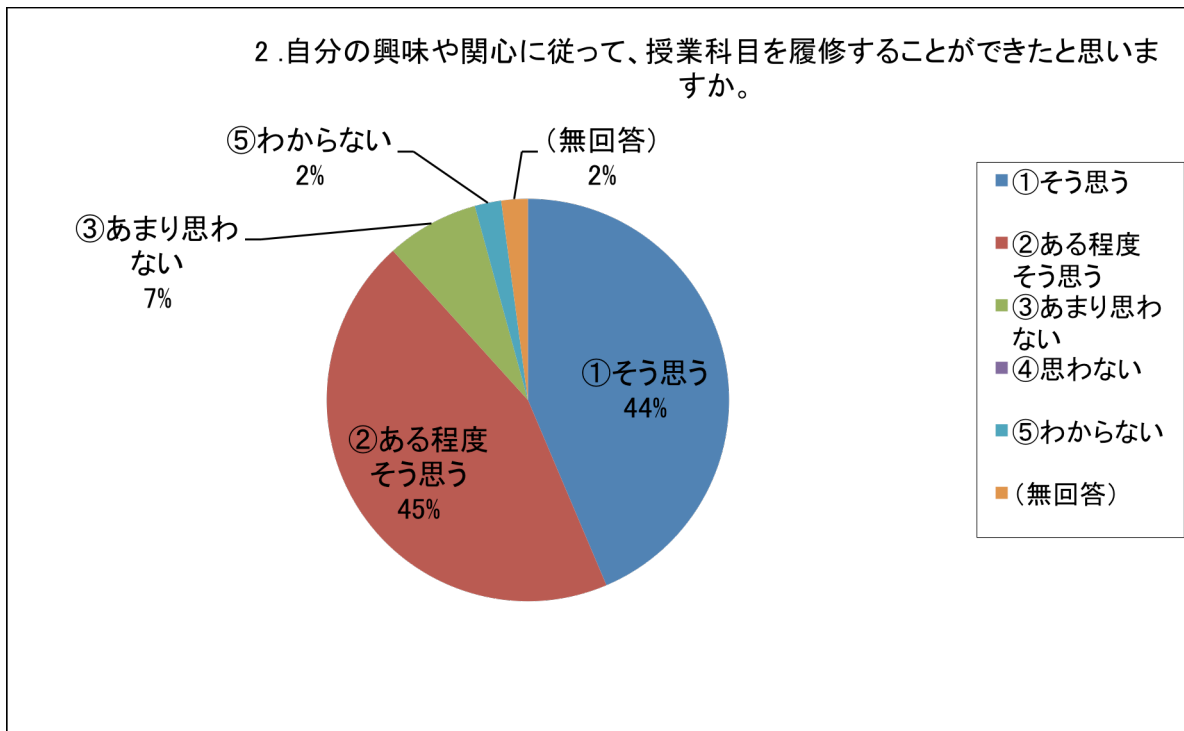
(設問2)



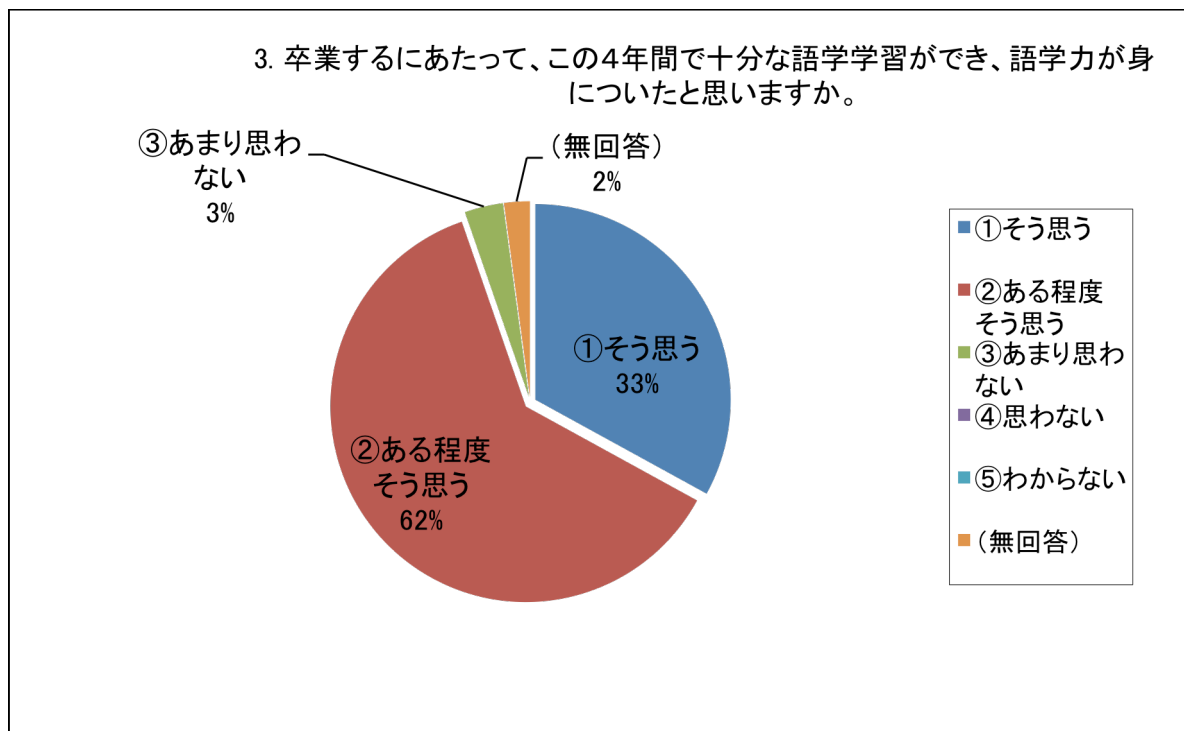
II 教育課程について
(設問1)



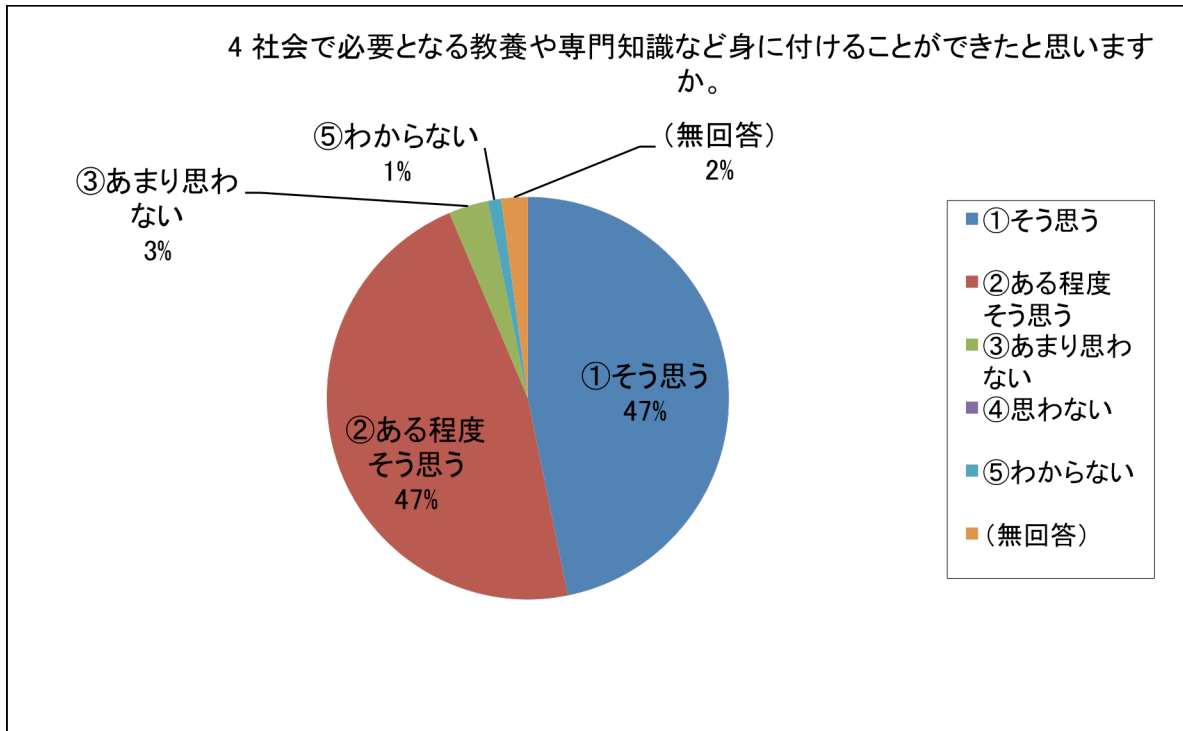
(設問2)



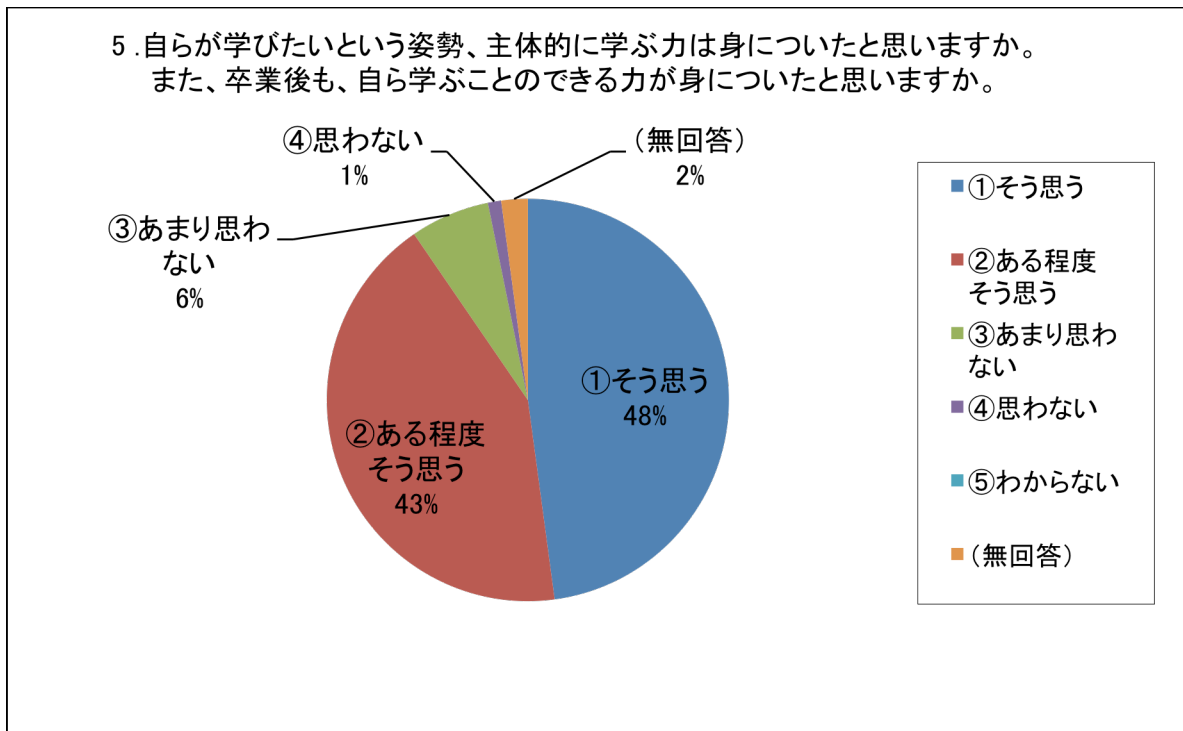
(設問3)



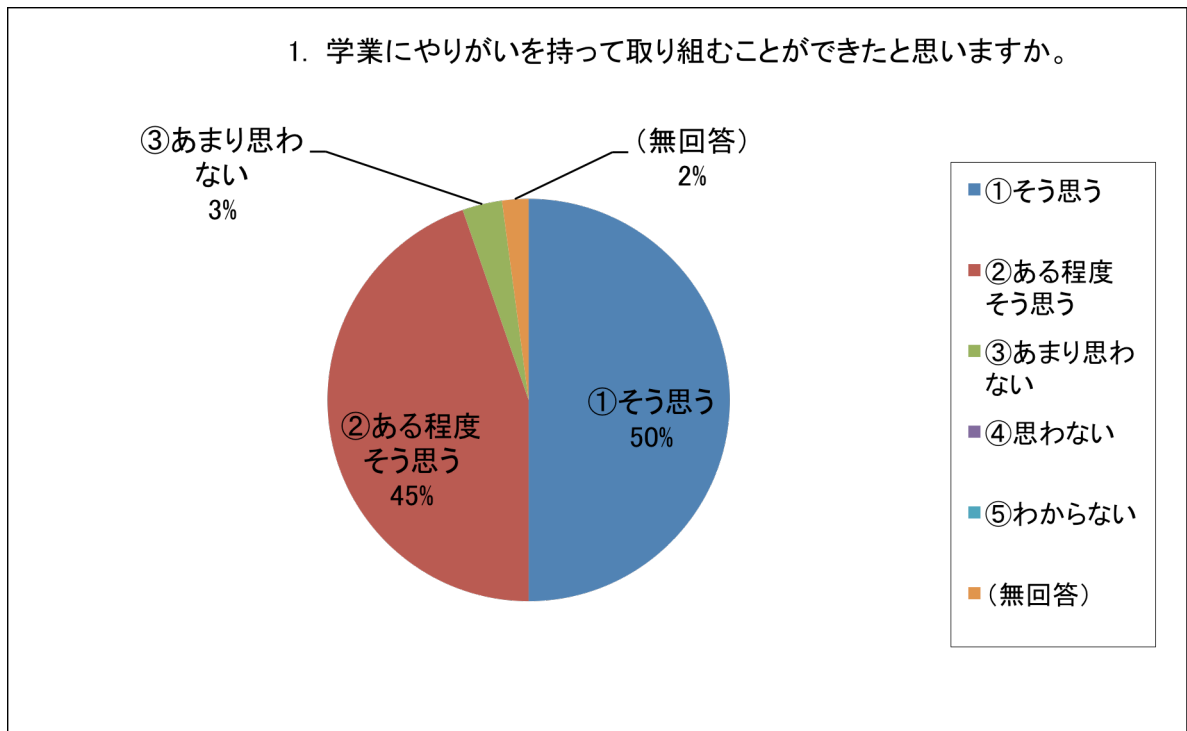
(設問4)



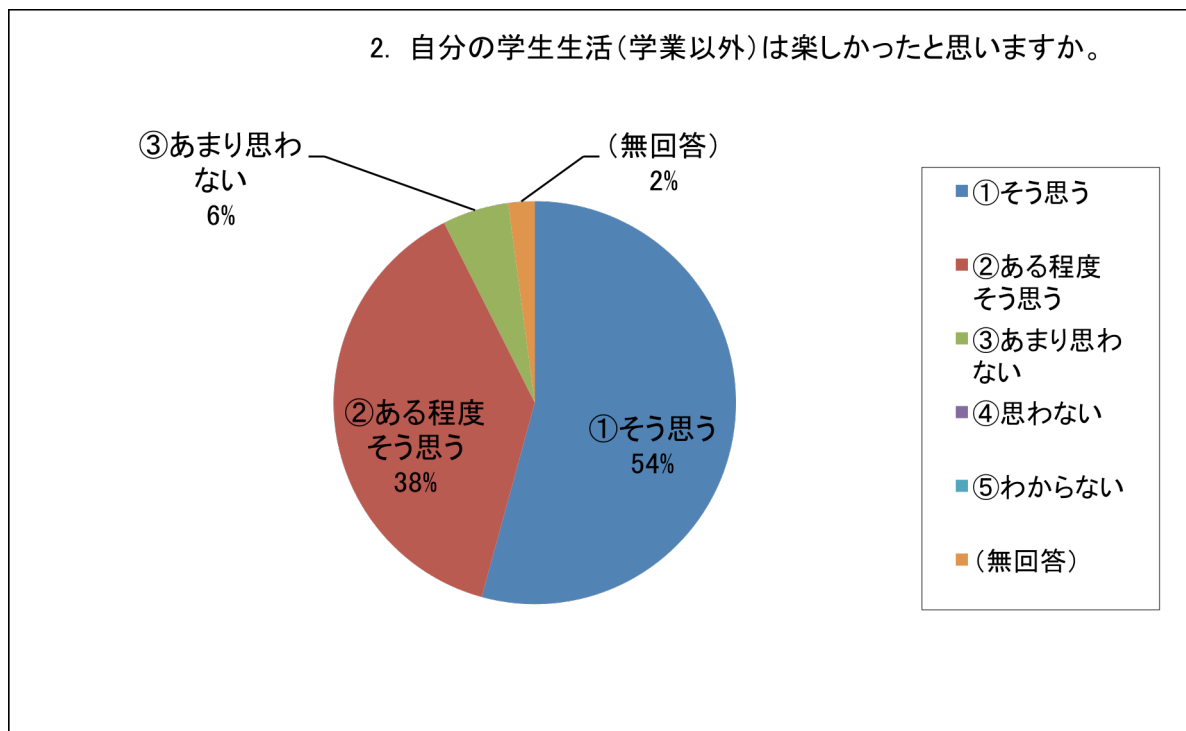
(設問5)



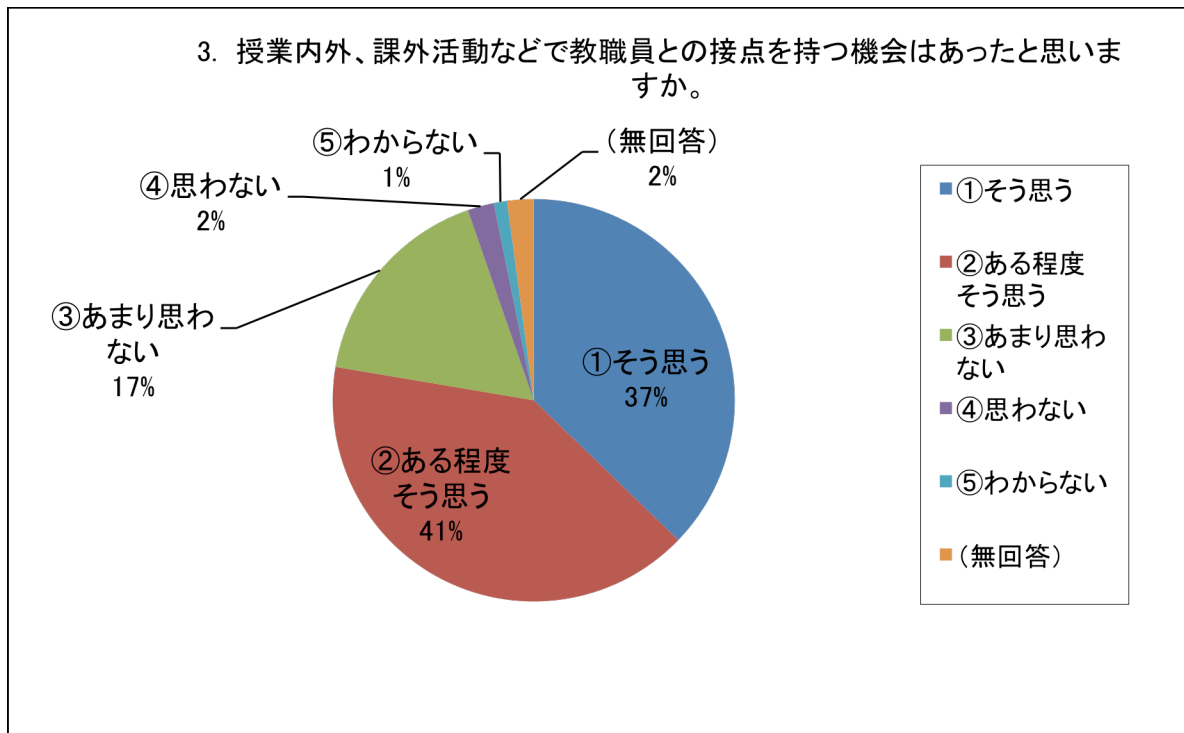
Ⅲ 大学生活について
(設問1)



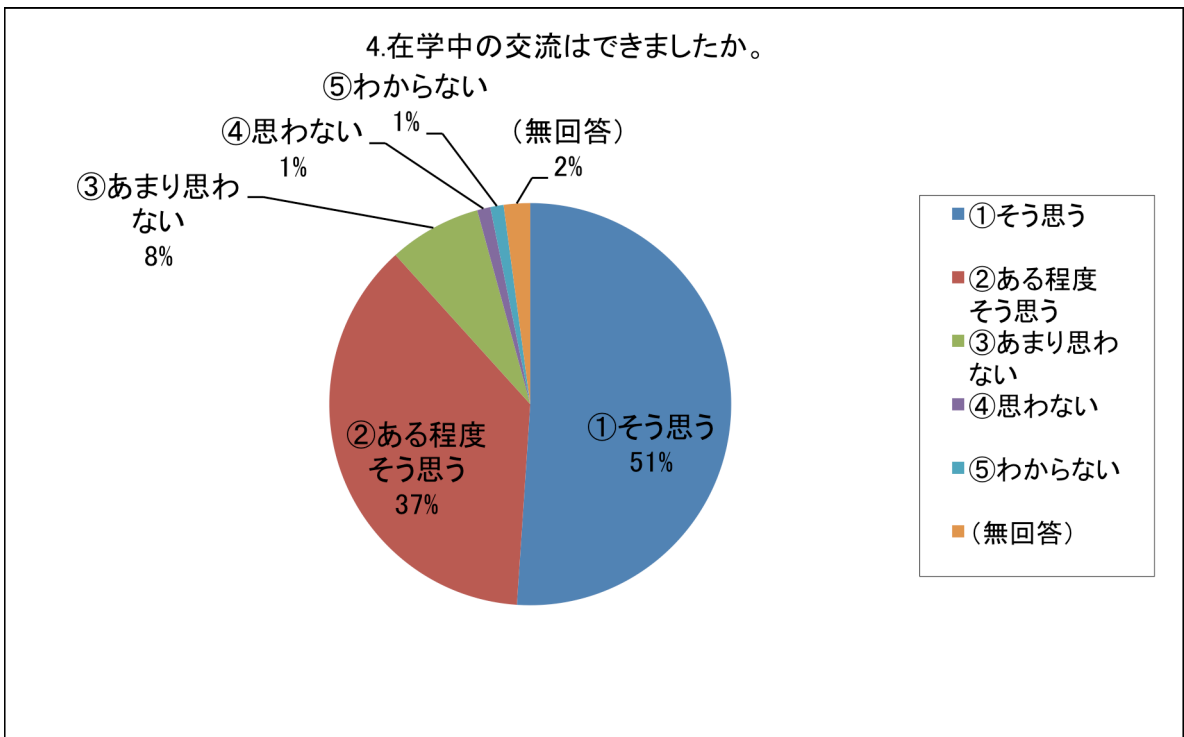
(設問2)



(設問3)



(設問4)



(設問5)

